

産業廃棄物を引続き埋立

地元大淵地区の協力で合意

燃やせないゴミを産業廃棄物処理場(大淵八王子)に引続き埋立て処理することで、地元と市および産業廃棄物処理事業協同組合の間で話し合いがまとまり、5月2日、覚書の調印が行われました。

さて、この調印は市民にとってどんな意味を持つのでしょうか。

みなさんの家庭から出る燃えないゴミは、この産業廃棄物処理場に大部分を埋め立てています。

そして、市内の製紙工場など約250社から出る産業廃棄物も一緒に埋め立てられています。

1日に350トンを埋立

これらを1日の量にすると、一般家庭から出るゴミが70トン、工場から出るゴミが280トンもあります。

毎日平均4トンのトラックで、実に90台分近くのゴミが、ここに運び込まれてくるわけです。

12万8,000平方メートルもある広い土地とはいえ、いままで8年間も埋立てして更に、57年5月7日まで埋立てするわけですからその量たるや大変なものです。

もし、この埋立てができな

ったら市内にはたちまちゴミの山ができることでしょう。

今回の調印はそんな意味をもっているわけです。

しかし、ここへの埋立てをいつまでも続けていくわけにもいきません。

そこで考えなければならないことは、まずゴミの減量と再生利用です。

ゴミの減量を

空ビン・空カン、使えなくなった電化製品など、一般家庭から出るゴミは再生利用することにより、ゴミの減量につながります。

これらは、各家庭でまとめて回収業者に出すよう、心掛けてください。

産業廃棄物といわれる工場から出るゴミも、燃える物、再生利用できる物は、各工場で考えていただくと相当の減量になります。

渡辺市長は、5月7日富士ハイツで、産廃処理組合加盟250社の代表者に対して、ゴミの減量と今後の処理方法について考えていただきたいと強く要望しました。



【市長、産廃組合長、地元代表者による調印式】

グループ訪問

22

美しい町づくりに

富士市花の会

花づくりを通じて、明るい家庭を築こう——が会のスローガン。

「私たちの住む町にたくさんの花を咲かせ、そこから人の輪が開くように……」と会長の齊藤和可子さん。

市内16地区に会があり、会員数は4,600人。

創立は昭和42年。以来、市内の公民館、公会堂、花だんなどに花を植

えつづけている。

活動は、各地区の会が主体となり花だん作り、バラのせん定、花づくりの講習会など。

今年は菊づくりを中心に……。

技術指導員の吉村ふじゑさんは、「誰もが、赤ちゃんに接する気持で



花を愛してほしい」と話していました。